令和４年８月26日 北海道新聞朝刊

潜って学ぶ奥尻

高校生がダイビング授業

【奥尻】檜山管内奥尻町の町立奥尻高（佐野住夫校長）が23～25日の3日間、奥尻島赤石地区の海で、スキューバダイビングの授業を行った。生徒たちは美しい「奥尻ブルー」の海に潜りながら、ダイビング技術の基礎を実習した。

同高は「島だからできる教育」を目指しており、1995年から総合学習の一環で実施している。同高は2017年度の入学者から全国募集を始め、この授業を受けることを目的に、島外から進学する「島留学生」も年々増えている。今年は、島外からの53人を含む全校生徒70人のうち、47人がダイビングの授業を選択した。

24日の授業では、函館のインストラクターの指導の下、生徒たちは4～6人で一組となり、1回約40～50分の潜水を行った。水深5㍍ほどの浅瀬で、ボンベの空気がなくなりそうになった際などの緊急時の対処法を確認した。

十勝管内鹿追町出身で3年生の舘結衣（ゆい）さん(17)は「海がいつも澄んでいて遠くまで見えた。毎回新しい生き物に出合えるなど、感動の連続でした」と笑顔を見せた。

（米林千晴）

電子版に動画

奥尻島の青い海で、ダイビングの基礎を学んで泳ぐ奥尻高の生徒たち＝24日午前11時45分（中本翔撮影）

業施設に立ち寄り、周辺を歩いていた。

11時10分ごろ、参院選候補者らの演説が始まる。17分ごろ、駅前ロータリー沿いの歩道で警戒中の統括役の県警幹部から1、2㍍離れたところに容疑者がいたが、拍手をする姿に不審者と感じることはなかった。

演説場所はガードレールに囲まれた道路中央で、警視庁のSP（警護官）1人と県警の担当者3人が警戒。安倍氏の演説直前、26分ごろまでに、ガードレール内にいた担当が、外側で後方を警戒した担当に内側に入るよう指示した。この配置変更は無線ではなく直

強めた。容疑者は29分51秒ごろ周囲を見渡し、30分56秒ごろまでにロータリーに進入。バッグに手を入れて歩き、31分3秒ごろ銃を取り出し、6秒ごろ1発目、約2・7秒後の8秒ごろ2発目を撃った。

SPらは聴衆のほか、付近を通過した自転車や台車を押す人に顔を向け、背後から接近する容疑者に気付かなかった。1発目は銃声と分からず、振り返って容疑者を認識。防弾仕様のカバンを掲げたり、容疑者との間に入ろうとしたりしたが2発目を防げなかった。1発目は安倍氏に当たらなかった。

北海道新聞　第3種郵便物認可

高校生目線 ユニークに奥尻紹介

授業で観光パンフ制作

「ざんねん」まとめ 逆説的PRも

【奥尻】奥尻高（佐野住夫校長）の生徒たちが授業の一環として、独自の奥尻島観光パンフレットを制作している。「釣りマップ」「バス・徒歩マップ」など、高校生ならではのユニークな視点で企画したもので、取材やデザインなども自ら手がける。生徒たちは今後、各地でのパンフ配布に向けて関係機関に働きかけを始める予定で、「島のまちおこしにつなげたい」と意気込んでいる。（米林千晴）

同高の総合学習「奥尻パブリシティ本部」を選択した1～3年生23人が、4班に分かれて制作している。班ごとにパンフの概要を決めた後、6～7月に島内を回って写真撮影や島民へのインタビュー取材などに取り組み、今月23～25日にパソコンで編集作業を行った。

奥尻の田舎っぽさをテーマに「ざんねんなおくしりマップ」をまとめたグループは、「船が欠航するとコンビニの物流が止まる（商品が無くなる）」「鳥にウニが食べられて殻が道路に散らかっている」などの島民の声を紹介しながら、逆説的に島の魅力をPRする内容で、2年生の高橋陽さん(17)＝東京都東村山市出身＝は「毎年、島のいいところを前面に出す企画が多いので、異なる視点をと考えた。イラストもきれいです」と話していた。

この授業は同高が2016年から実施しており、ス

キューバダイビング授業を選択しなかった生徒たちが取り組む。パンフレットの配布場所は島内に限らず、島留学生が交渉して、出身地の図書館などで配ったこともあるという。

ノートパソコンでパンフレットのデザインや編集作業を進める奥尻高の生徒たち

工藤市長は会見で「市民がさまざまな値上げがあ